

「納税に対する考え」

富山県立高岡商業高等学校一年 松本 美波

私たちは、物を買って税金を納めたり、継続して車などを所持するために税金を納めたりしています。そのため、税金は身の回りに存在しています。税金のおかげでゴミ収集や警察を頼ることができているので、税金を納めていないと生活が不便になります。

私は、税金のことを知り、税金に関するニュースを調べました。すると、京都市が二〇二三年三月に「空き家税」という税金を始めたというニュースがありました。空き家税とは、空き家の所有者に課税するという税金です。空き家撲滅や空き家の有効活用を促す狙いです。二〇二二年三月に「京都市非居住住宅利活用促進税条例」が成立しました。そして、翌年の三月には総務大臣が空き家税創設に合意しました。そのため、二〇二六年以降には全国で空き家税導入が見込まれています。

このニュースを見て私は、税金の種類を増やすということは、納税者を苦しめようとしているのではなく、都道府県それぞれや国の問題点を見つけてよりよい都道府県や国にしていこうという考えをもってしていることだと分かりました。だから、増税されることになったら最初は「嫌だな」「最悪だな」と思ってしまうかもしれないけど、この先の国は今よりもよりよいものになっていると信じて未来への投資のように考えるといいと思います。未来のことが分かる人なんて誰もいないけど、国は今のまま何年も経っていったら今の生活ができなくなってしまうたり、国が発展していかなかったりすると予測して増税などをしていると思うので今の生活に感謝して何年経っても同じような暮らしや今以上の暮らしができるようにしたいという気持ちをもてれば納税に対して「嫌だな」という気持ちがいい方向に変わっていくと思います。

正直私は、納税にいいイメージをもっていませんでした。でも、税金を納めることによってゴミ収集や警察を頼ることができます。だから、あたりまえだと思っていることは税金を納めているからあたりまえではないということが分かりました。税金を納めることで今の生活が成り立っていて、必要不可欠なものだと思います。税金には気づかないうちに助けられていることが多いと思いました。だから私はいいイメージをもてていませんでした。私以外にもこのようなイメージをもっている人はいると思うので、税金を何に使っているのか、税金がなくなったら今の生活はどう変わるのかをその人は知る必要があると思います。その知るきっかけは税に関する作文も一つです。私は今回税に関する作文を書いてよかったと思っています。これのおかげで納税という言葉は嫌な風に見えなくなりました。そんな人がどんどん増えていけばいいなと思います。